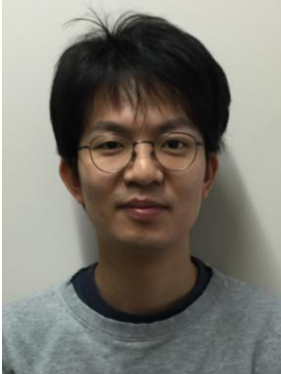


Ursula and Fritz Melchers Travel Award を受賞して

氏名	大木 拓究人	
所属	北海道大学遺伝子病制御研究所分子神経免疫学分野	
発表論文 タイトル	Symmetric-Gateway Reflex, which develops symmetrical inflammation between joints is induced the specific sensory pathway in a rheumatoid arthritis model	

この度は、免疫学会のUrsula and Fritz Melchers Travel Awardという荣誉ある賞をいただき大変光栄に思います。研究や学会発表に際し、ご指導下さった村上正晃先生、上村大輔先生、有馬康伸先生には謹んで感謝申し上げます。

私は現在北海道大学医学部6年次の学生であり、免疫学の研究を分子神経免疫学分野、村上正晃教授のもと行なっています。来年次より同教室において博士課程に進学する事を予定しています。もともとは膠原病に罹患している友人がおり、より詳細な病態の解明を通して有効な治療法に繋がりたいとの思いで医学部に進学し、学部1年生から研究室に出入りして実験手法を学んでいました。医学科3年生の時に村上先生に出会い自分のテーマが与えられ、自分で試行錯誤してデータを出していく過程に夢中になり、病気を治したいという気持ちに加えてサイエンスの楽しさに目覚めました。現在は、関節リウマチにおける左右対称性の病変がどのように形成されるのかを神経免疫学の観点から解明しようと日々実験を進めています。免疫学は神経学と並んで最も複雑かつダイナミックに変化するシステムを内包した、永遠に研究対象が尽きない魅力的な学問であり、治療に結びつくという側面も持っています。今後とも情熱をもって免疫学の研究に邁進し、新しい概念の創出に挑戦していきたいと思っています。またMelchersご夫妻を囲むluncheonでは、ご夫妻のサイエンスに対する気持ちを聞く事ができ、非常に感動しました。今年度の受賞者とも親交を深める事ができ非常に感謝しております。この度の受賞の機会を励みに、さらに研究に邁進していきたいと思っています。最後になりましたが、本賞を受賞させていただく機会を与えて下さいました、坂口志文先生を初めとする選考委員会の先生方に深く感謝いたします。